

平成 9 年 度

秋田県環境技術センター一年報

第 2 5 号

(1 9 9 7)

秋田県環境技術センター

はじめに

平成9年度の事業概要と、調査研究の結果を年報第25号としてまとめましたのでお届けします。

今日、我々の生活は科学技術の進歩や発展により、利便性を享受するとともに、大量生産、大量消費、大量廃棄の社会経済活動が定着し、このシステムによる生活様式に何の疑念を持たず暮らしてきました。しかし、そのひずみが環境汚染として大きくクローズアップされているダイオキシンや外因性内分泌攪乱化学物質の問題を引き起こしました。

また、地球温暖化や酸性雨、オゾン層の破壊等いわゆる地球環境問題も、考えてみますと我々の身近なところに、その要因があるといえます。今こそ、省エネや廃棄物の削減、化学物質の適切な使用等、我々の生活スタイルを見直す良い機会であり、見直さなければいけない時期と考えます。環境への負荷を出来るだけ少なくした生活スタイルの構築が重要であり、それには一人一人がまず出来るところから着実に実行する事が何よりも大切であります。当センターでは、このような事柄についての情報を、県民にわかりやすく提供していくことも、欠かすことの出来ない業務として、考えていかなければいけないと思っております。

本県は、豊かな自然に恵まれており、この貴重な財産を次世代に引き継いでいくことが、我々に課せられた責務であります。そこで当センターでは、行政と連絡を密にしながら、広がりを見せる環境汚染に対応すべく、努力しているところです。しかしながら、将来的にも環境保全の課題に的確に対応するためには、人材の育成や機器整備の必要性に直面していることもまた事実であります。

今後も職員一丸となって、地域に密着した環境問題解決のため努力してまいりたいと考えております。

本年報には、秋田県における酸性雨モニタリング結果や人工湖の水質汚濁機構解明調査、田沢湖の水質に関する調査研究、揮発性有機塩素化合物測定用検知管の有用性の検討等を載せております。

本所報をご高覧いただくと同時に、ご批判、ご指導をいただければ幸いです。

平成11年1月

秋田県環境技術センター
所長 小林 裕